

第33回 わんぱく相撲東京都大会稲城場所

新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン

2022年3月25日作成

4月21日修正

本ガイドラインでは、「スポーツイベント再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」及び「相撲におけるスポーツ活動再開ガイドライン」に則り、第33回わんぱく相撲東京都大会稲城場所を開催する際の新型コロナウイルス感染防止等の留意点を示す。

■ 競技会開催準備編

1) 会場選定

- ①密集対策として参加者（選手・役員）が、最低1mの間隔を保つことができる施設を基準とし、稲城中央公園総合体育館メインアリーナ（以下「稲城市総合体育館」）を選定する。
- ②応援者・観客については、最低1m（2F 観客席にあっては他グループとの間に1席分）の間隔を保てるよう入場を制限する。
- ③周囲の人と十分な間隔が保てない場合は、観客の誘導を行う。

2) 留意事項の作成

- ①本ガイドラインを基に会場の実態等に合わせた「留意事項」を作成し、大会プログラムに掲載して参加者らの周知徹底をはかる。
- ②「留意事項」を順守できない場合は、出場できなくなる旨を明記する。
- ③第33回わんぱく相撲東京都大会稲城場所実行委員会（以下「実行委員会」）において競技時間の短縮に向けた検討を行い、感染リスクの低下をはかる。

3) 会場設営

- ①感染防止に関する注意事項を適切な場所に掲示し、周知を図る。
- ②入場者が密集にならないよう区域割を行い、人の流れが向き合わない導線を示す。
- ③稲城市総合体育館の感染症対策入口を活用するほか、適切な場所に、手洗い場所、アルコール消毒場所を設置する。
- ④複数の参加者が触れると考えられる場所（トイレや支度場所を含む）の消毒、控室等の換気を定期的実施する。
- ⑤東西の土俵溜では選手・副審の距離を可能な限り保てるよう会場設計する。

4) 大会開催の判断について

- ①第33回わんぱく相撲東京都大会稲城場所の開催可否判断については、同実行委員会の判断の基で行う。
- ②わんぱく相撲地区大会への後援の有無にかかわらず、開催地域の行政（稲城市、稲城グリーンウェルネス財団等）に確認・相談を行う。
- ③開催期日に『緊急事態宣言』が発令されている場合は如何なる場合でも中止とする。（蔓延防止措置の場合は記述の対策を徹底の上で実施する）
- ④開催可否の判断は、大会開催月月初の6月1日（水）に開催する稲城青年会議所第6回理事会にて方向性を見極め、直近の実行委員会に諮って決定する。

■健康確認編

1) 参加者（選手・役員・監督・コーチ）に対し、当日の体温の他、競技会前2週間に於ける以下の事項の有無について情報提出を求める。

- ・平熱を超える発熱（おおむね37度5分以上）
- ・咳（せき）、のどの痛みなど風邪の症状
- ・だるさ（倦怠（けんたい）感）、息苦しさ（呼吸困難）
- ・嗅覚や味覚の異常
- ・体が重く感じる、疲れやすい等
- ・新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
- ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

2) 主催者は、参加者のうち当日の体温が平熱を超えるものや、1)の各事項について該当するものに対し参加の見合わせを求める。

3) 応援者・観客に対しても、1)の各事項に当日該当していると判断される場合には、同対象者の入場見合わせを求める。

4) 上記1)を担保するため、別途『体調管理表（体温等記録表）』を作成し、事前に参加選手の各ご家庭にデータ配信しご記入いただいた上、当日エントリー時に提出してもらう。

※尚、紙での出力が出来なかった場合には、別途メモ等に日付と体温を記入してきていただき、当日その場に出力用紙を用意して転記していただく。

■当日受付

- 1) 稲城市総合体育館エントランスの手指消毒液を活用する。
- 2) スタッフと人が対面かつ至近距離で接することが想定される場合は、マスクに加えてフェイスシールドなどを装着する。
- 3) 筆記用具は、個人専用のものを使用する。（ゴルフペン等）

- 4) 全ての入場者に対し、マスクの着用を求める。(予備マスクの配置)
- 5) 待機列が発生する場所に距離を置いて並べるよう立ち位置を示し、誘導整理する。
- 6) 健康確認を行う者を配置し、■健康確認1)の各事項について該当する体調不良者(発熱、咳、咽頭痛等)の入場を制限する。また参加選手については受付時に■健康確認4)の体調管理表(体温等記録表)をご提出いただく。

■参加者の行動

- 1)、こまめに手洗い(30秒以上)を推奨し、取り組み直前に手指消毒を行う。また、真正面での会話は避ける。※競技時のマスク着用は怪我につながる恐れがあるため原則不可と通達有り。事前に参加同意書などで保護者確認項目として追記する。
- 2) 会場では、常に密集、密接、密閉を避けるように心掛ける。
- 3) タオル、うがい用の水(ペットボトル等を準備)は、各個々人が専用のものを使用する。
- 4) 出場選手は、取組前後に消毒用アルコールティッシュ等で手指の他、顔面、胸、肩等を拭く。(消毒用アルコールティッシュは実行委員会で用意する)
- 5) 参加者同士の大声での声援、指示、指導は禁止とし、競技時以外は、決められた場所で周囲の者と十分な距離を保って観戦していただくことを周知する。
- 6) 審判は、競技中も必ず不織布マスクを着用する。
- 7) 主審は、飛沫拡散を配慮し、通常より1歩程度後ろで動作を行う。
- 8) 主審の判定に異議・疑義が生じた場合、審判員は、マスク着用の上、隣の審判員と通常より若干の距離を取って協議を行う。
- 9) 競技会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、速やかに報告していただくことを周知徹底する。

■監督・コーチ等の行動

- 1) 競技に関する指導だけでなく「三密」を避ける行動、衛生保持についての指導も行っていたくよう周知する。
- 2) 作戦指導・指示等は、控えに入る前に済ませ、その後の大声での指導・指示・応援は行わない。
- 3) 真正面からの指導・指示は避けていただく。
- 4) 感染した場合に備えて、所属の応援者等関係者の入場届を当日入口にてご記入いただき、実行委員会で保管する。(個人情報保護の観点から、終了から4週間後に廃棄)

■応援者・親客・引率者の管理

- 1) 体調不良者の入場は認めない。
- 2) マスクを着用していない者の入場は認めない。
- 3) 決められた場所で周囲の者と十分な距離を保つよう求める。

- 4) こまめに手洗い、手指消毒を行うよう求める。
- 5) 大声での声援は禁止とし、会話を控えることを周知する。
- 6) 上記の事項について、順守できない者は退場を求める。

■実行委員会の対応

- 1) 実行委員会において、新型コロナウイルス感染症対策の会場責任者を指名し、大会会場内の感染防止策の徹底に努めさせる。
- 2) 同会場責任者は、事前に立案された消毒、換気等の計画に基づいて、本ガイドラインが定める留意事項が順守されているか、巡回・確認する。
- 3) 役員及び会場責任者は、感染予防に反する行為を見かけた場合は口頭注意し、大会本部に報告する。是正されない場合は退場を命ずる。
- 4) 感染症対策に不安がある形式での開会式、閉会式、賑やかしのイベントは原則行わない。
- 5) 表彰式は、以下のとおり行う。
 - ・表彰者はマスクと白手袋を着用し、選手はマスクを着用する。
 - ・団体戦の表彰団体は、代表者1名が出席し、賞状・メダルのみを授与する。
- 6) 万が一、当日会場において感染者が出た場合は速やかに各自治体や行政（保健所等）の指示に従い、感染者を誘導する。

➡東京都新型コロナ・オミクロン株コールセンター

- 電話番号：0570-550-571
- 対応時間：9時から22時（土曜・日曜・祝日を含む毎日）

■その他

- 1) 飲食は指定場所以外で行わず、周囲の人となるべく距離をとって対面を避けて、会話は控えめにすること。飲みきれなかった飲料は、中身をカラにしたうえでゴミ箱に捨てるか持ち帰りを徹底すること。
- 2) トイレの使用については、会場の規則を遵守し、使用後は30秒以上の手洗いと自分専用のタオルで手を拭くこと。
- 3) ごみの廃棄は以下のとおり行い、廃棄については、会場の規則に従う。
 - ・鼻水、唾液などがついたゴミは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ゴミを回収する人は、マスクや手袋を着用すること。
 - ・マスクや手袋を外した後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒すること。
- 4) 感染予防に必要な消毒液、消毒用アルコールティッシュ及び石鹸等はできる限り各自が確保す。※ただし試合取り組み前後の消毒用アルコールティッシュは実行委員会にて準備する。
- 5) 参加者等から収集した個人情報については、責任を持って管理し4週間後に廃棄する。
- 6) このガイドラインに定める以外の問題が生じた際は、実行委員会内で協議し、（公財）日本相撲連盟競技会規程に規定する各団体及び（公社）東京青年会議所に協議を諮り決定する。

以上